

## 会長就任に際してのごあいさつ

福 田 武 雄

今回、はからずも、50年の伝統と光栄とに満ちた土木学会の会長に選任されましたことは、まことに、身に余る光栄と存ずると同時に、あたかも創立50周年のときにあたり、その責務の重大さを痛感する次第であります。

およそ工学の諸部門の中で、土木工学ほど、広汎な範囲にわたり、かつ性質を異にする多くの専門分野をふくむ工学はありません。

そのためか、よく世間では、他の学協会ではその分野ないしは性格がはっきりしているのに、土木学会ではなんら一定の目標がなく、何をしているのか、何をするのかわからない、などという意見を耳にすることがあります。しかし、このこと、すなわち、土木学会に性質がちがった多くの分野がふくまれ、表面上はそれらの単なるよせ集りとしか見えないことそれ自身が、土木学会のすぐれた性格であり、強味であり、単一分野の学協会には期待し得ない無限の可能性が内蔵されていると信じます。

私が昨年まで所属していました東京大学生産技術研究所は、工学のいろいろの分野を包含し、たとえば航空研究所や原子核研究所などに比べると、研究の対象や目標がはっきりせず、何を研究するかわからないといわれていましたが、この性格のおかげで、単一分野の研究所ではできないようないろいろな研究成果をあげて来ました。観測ロケットに関する一連の成果も、その一つの例にすぎません。土木学会としても、それが包含する多彩な分野、潜在する無限の可能性を活用して、実際の土木



工学および土木技術界の期待にこたえ、有用な貢献をするためには、会員各位間の連絡調整が必要なことはいうまでもありませんが、学会それ自身として、既存の各種の委員会等の活用のほか、土木工学もしくは土木技術に関して総合的に解決または推進を必要とするテーマを取りあげ、テーマごとに、それに応じた方法で集会を開くとか、研究・調査して問題

の解決をはかるのが望ましいと考えます。また場合によっては、テーマごとに、関係ある他の学協会等と協同または連絡して行くことが必要と思われる。

以上のようなことを効果的に推進するには、会員各位のご理解とご協力が必要であります。およそ土木技術は、多くの他の技術分野または産業と異なり、個人的の利便を目標とするものでなく公共の福祉、利便を最終目標とするものであり、また、土木技術ほど、個人的なスタンププレーが幅をきかすことなく関与する関係者全員の協力と団結とを必要とする分野は、他にありません。会員各位は、それぞれ関与される土木技術の分野においてのみならず関係する他の分野にもわたって、上記の共働的経験は十分に積まれており、上記のような学会の事業にも、本年度の50周年記念事業にたいしても、十分にご協力・ご支援をたまわるものと思います。

私は、これを期待し、またこれによって、微力ながら、私に課せられた重大な責務を果たして行きたいと考えております。

(東京大学名誉教授)